



取締役社長 長浜 洋一

皆様には、平素より格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年の当社グループを振り返りますと、超円高の是正による輸出採算の改善等一部環境の好転はあるものの、国内市場の厳しい環境は変わらず、変化した国内市場への対応と、エレクトロニクス事業の復興・再生を重点に取り組んだ一年でした。

お客様のご要望や市場の変化に迅速にお応えするために、これまでの事業部制を改め、営業部門も組み入れた事業責任を明確にするカンパニー制を導入しました。また、外部環境の変化に身の丈を合わせるために、グループ全体で販売・物流・製造の全機能を見直す事業構造改革を、2014年度末完了を目指して取り組んでいます。

タイの洪水で壊滅的な被害を受けたエレクトロニクスカンパニーは、2012年度に生産能力の回復が完了し、2013年度は事業の再生に注力しています。FPC等で受注の回復や生産性が改善する等、再生に向けて明るい兆しが出てきました。

皆様には、2年間にわたり大変ご心配をおかけしましたが、今年は全カンパニー基盤強化を図り、さらなる成長につなげていきますので、引き続きご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

それでは、各カンパニーの取り組みについてご紹介いたします。

まず、エネルギー・情報通信カンパニーは、事業構造改革によって、縮小した国内需要に事業サイズを合わせることで事業体質強化を図ります。需要が旺盛な中国では、光ファイバ母材工場の増産体制を確立し、堅調な需要に対応していきます。また、成長戦略の一つであるインフラ事業のグローバル展開で、インドネシアやブラジルでFTTH関連製品やケーブルの製造会社を立ち上げて、事業の拡大を目指します。

エレクトロニクスカンパニーは、更なるビジネスの回復とものづくり力の強化で、事業再生を確固たるものにし、既存の携帯端末やデジタル家電向けの商品に加え、自動車や医療機器向けの商品を開発し、事業領域の拡大を目指していきます。

自動車電装カンパニーは、世界3極体制の整備により、お客様の要望に的確に対応することで、既存のビジネスを計画通り拡大するのに加えて、欧州R&Dセンターや自動車先端技術開発センターとの連携により、お客様の将来のニーズに応えた新商品の開発で、他社との差別化を目指します。

研究開発部門は、15中期経営計画で設定した「環境・エネルギー」「クラウドコミュニケーションズ」「医療／介護／ヘルスケア」の3つの成長分野を中心に高温超電導線やファイバレーザなど、新商品開発及び既存事業の高付加価値化を加速して進めていきます。それらの推進により成長の源である新陳代謝を具現化していきます。

本年もフジクラニュースを通じて、当社グループの新商品・新技術を紹介して参りますので、皆様の変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2014年元日

第58回澁澤賞受賞

中部電力株式会社と当社からなる共同開発グループは「地中機器リプレース用アダプタの開発」で、一般社団法人日本電気協会から第58回澁澤賞を受賞しました。

この賞は、電気の保安・信頼性の向上に関する様々な分野で顕著な功績をあげた方を顕彰する制度で、故澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けられたご栄誉を記念するために昭和30年に設立され、権威ある賞として各界より認められているものです。

今回の受賞は、電力の安定供給および電力工事コストの削減を可能とし、現在の社会的ニーズにマッチした技術開発テーマとして、その功績が認められたものです。

老朽化した地中化機器のリプレースにあたっては、コストダウン、信頼性向上、コンパクト化を図った新型機器が導入されるため、新／旧機器で適用するケーブル端末仕様が異なります。そのため、リプレースの際には端末を作り替える必要が有ります。この端末の作り替えによってケーブルの余長が不足する場合、ケーブルを新たに張り替えるため、停電時間の長時間化や工事費の高コスト化が課題となっていました。

上記課題の解決策として、高圧ケーブルの余長不足を補えるコンパクトで作業性に優れた「地中機器リプレース用アダプタ」を開発しました。



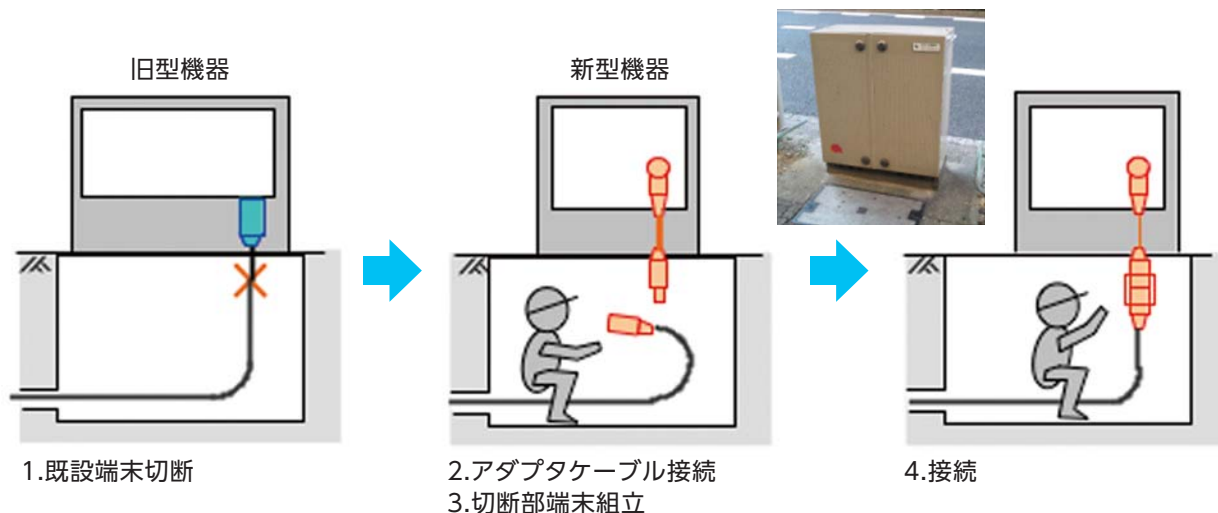
左から
西野 宏(フジクラ)、山浦様(中部電力株)
久世様(中部電力株)、堀 泰伸(フジクラ)



リプレース用アダプタケーブル



現地組立側端末

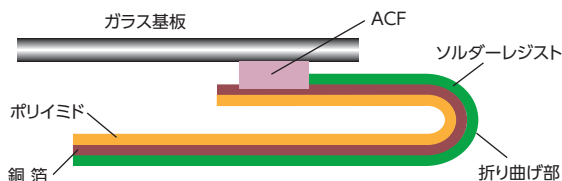
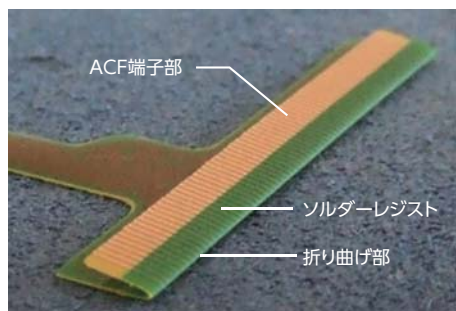


低反発・低反り難燃 solderレジストFPC

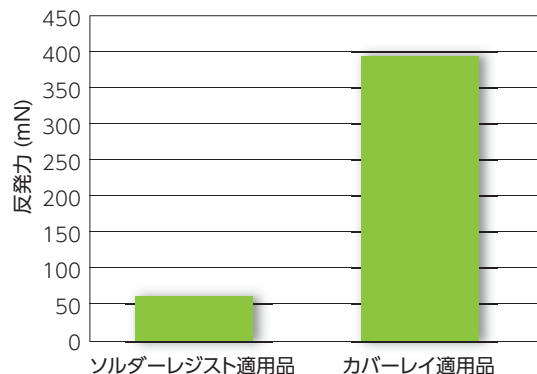
近年、スマートフォンやタブレット端末など電子機器の小型化・薄型化が益々進んでおり、これらの機器に使用されているフレキシブルプリント配線板(FPC)に対して、筐体への組み込みやすさ等の要求が高まっています。当社はこの市場ニーズに応えるため、新しい感光性solderレジストを用いた低反発・低反りFPCを開発しました。

このsolderレジストは、ポリイミドベースのカバーレイフィルムと比べ、柔軟性が優れているため曲げ加工がし易く、曲げた状態で形状を維持するため、筐体への組み込みが容易になります。またフォトリソグラフィ方式で成型するためレジスト開口位置精度が高く、異方性導電フィルム(ACF)の接合にも優れています。更に環境汚染物質に該当する臭素系難燃剤を含まずに難燃性を有しており、UL94の認証も取得しています。

製品使用例



反発力比較



ループスティフネス試験

solderレジスト15 μ m/ CCLベース25 μ m

カバーレイフィルム38 μ m/CCLベース25 μ m

プリント回路事業部 E-mail: askfpc@jp.fujikura.com

高圧ケーブルの活線診断装置 LINDA & PDD

現代社会に求められる不断の電力供給のために、送配電ケーブルは的確に保守管理される必要があります。当社では、1980年代からの実績を有する“活線絶縁診断装置LINDA”と新しい診断手法“活線下部分放電検出装置PDD”の高圧ケーブルの活線診断装置を上市しています。

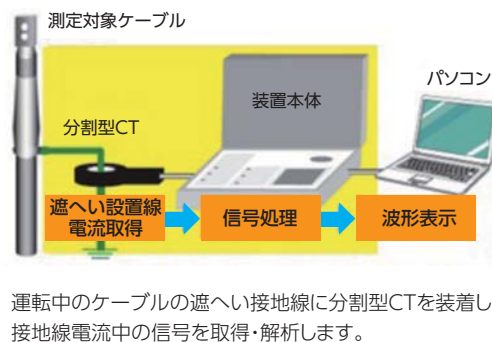
LINDAは、3～6kV系を対象とし、運転中に高圧ケーブルの絶縁抵抗を測定することで診断を行います。【適用条件あり：特高受電、EVTを介して直流電圧を印加】PDDは、運転中高圧ケーブルの接地線電流に放電信号が含まれるかを調べる新しい手法です。分割型CT(電流センサ)を対象ケーブルの接地線にクランプして測定を行います。

LINDAは事実上標準である高圧直流漏れ電流試験と同等の信頼性が、PDDは現場で即運用頂ける機動性の高さが最大の特徴ですが、共に活線診断(運転中診断)手法であり高圧ケーブルの保守管理に有効活用頂ける装置です。

高圧ケーブル活線絶縁診断装置 LINDA



活線下部分放電検出装置PDD



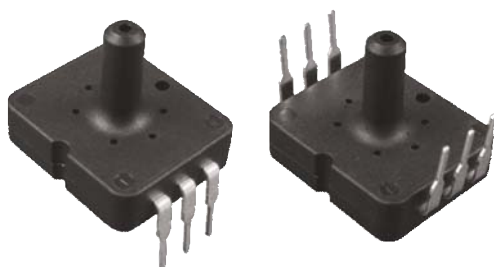
運転中のケーブルの遮へい接地線に分割型CTを装着し、接地線電流中の信号を取得・解析します。

新型半導体式圧力センサ AP2/AG2、AP3/AG3、AP4/AG4シリーズ 発売開始

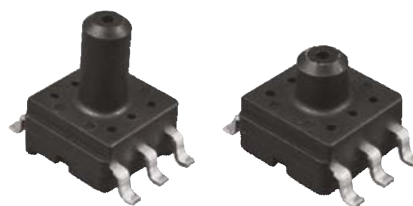
当社は新型半導体式圧力センサを開発し、2014年1月より順次出荷を開始します。新製品はAP2/AG2、AP3/AG3、AP4/AG4シリーズの計6機種を用意しています。圧力センサチップとCMOS信号処理ICを組み合わせ、さらに、当社が持つMEMS、パッケージング、IC組立技術を活用することにより従来品の集積化圧力センサXFPM/XFGMシリーズよりも高精度、低消費電力化を実現しています。

また、従来品はアナログ出力のみですが、近年要求の高まっているデジタル出力モデル(AP4/AG4シリーズ)も加えお客様のアプリケーションにおいてマイクロプロセッサとの接続を容易にしました。新製品の形状、ピン配列は従来品と互換性を持たせており、従来品をご使用中のお客様も新製品へのアップグレードが容易になるよう配慮しています。

■センサ外觀形状



APシリーズ 本体寸法:14×12mm



AGシリーズ 本体寸法:7×7mm

■仕様

シリーズ	XFPM / XFGM 参考(従来品)	AP2 / AG2	AP3 / AG3	AP4 / AG4
電源電圧(V)	5	3, 3.3, 5	3, 3.3, 5	3, 3.3, 5
最大消費電流 (mA)	10	3	6	4.5
出力方式	アナログ	アナログ	アナログ (ロジック出力機能あり)	デジタル(I ² C-Bus)
動作温度(℃)	-40 ~ +125	-40 ~ +125	-40 ~ +105	-40 ~ +125
精度補償温度(℃)	0 ~ +85	0 ~ +85	0 ~ +60	0 ~ +85
精度(%FS)	±2.5	±1.5	±1.5	±1.5
適用圧力レンジ(kPa)	-100~1000	-100~1000	-100~1000	-100~1000
出荷開始時期	-	2014年1月	2014年7月	2014年7月

I²C-BusはNXP Semiconductorsの商標です。

電子材料事業部センサ部 E-mail:sensor@jp.fujikura.com

株式会社フジクラ 〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1 TEL:03-5606-1112 FAX:03-5606-1501

●発行:2014年1月 No.390 ●編集兼発行責任者:和田 朗

URL <http://www.fujikura.co.jp>

関西支店 TEL.06-6364-0373 中部支店 TEL.052-212-1880 九州支店 TEL.092-291-6126

中国支店 TEL.082-211-3600 東北支店 TEL.022-266-3344



本印刷で使用する
電力のうち1,000kWhは、
バイオマス発電でまかないます。

